

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 29 年 6 月 27 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 24.0～25.3℃、北の風のち北東の風 1.2～4.5m/s であった。当日は大潮で、6 時 18 分に満潮、13 時 17 分に干潮であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

今回の調査では、4 月の調査で出現した種に加え、クロダイ、コノシロ、サッパ、クサフグ、ヒモハゼ、ナベカ属、タイワンメナダ属の稚魚等が確認された。

2017/6/27	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	13 : 45～14 : 35	12 : 10～13 : 05	9 : 45～11 : 15
水温 (°C)	23.4	24.8	24.9
塩分	24.7	18.5	26.1
透視度 (cm)	69	35	43
D0 (mg/L)	7.6	10.2	6.0
D0 飽和度 (%)	107.6	136.4	85.0
波浪 (m)	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
pH	8.1	8.3	8.1
水の臭気	下水臭 (弱)	下水臭 (中)	無臭
備考			

注) 塩分、D0、pH の値は計器測定値。

●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ (c)	マハゼ (c)	エドハゼ (m)
	クロダイ (c)	ヒメハゼ (c)	サッパ (m)
	ボラ (+)	サッパ (+)	ヒモハゼ (c)
	スズキ (r)	ボラ (+)	マハゼ (r)
	ビリンゴ (r)	コノシロ (+)	コノシロ (r)
魚類以外	エビジャコ属 (r)	ニホンイサザアミ (G)	ニホンイサザアミ (G)
	アラムシロガイ (r)	エビジャコ属 (m)	クロイサザアミ (G)
備考	4 月調査時と比べ、スズキ、マハゼの成長がみられた。		アカエイ成魚 (r) ニホンイサザアミが多く捕獲された。 ※15Lバケツ×2 杯強

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G: 1000 個体以上、m: 100～1000 個体未満、c: 20～100 個体未満、+: 5～20 個体未満、r: 5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子



地曳網では、4月調査時同様にマハゼ、ボラ、スズキが捕獲された。またその他、新たにクロダイ、チチブを確認した。魚類以外では、アラムシログイ、アサリ、ワレカラ類、タカノケフサイソガニ等が捕獲された。

捕獲された主な稚魚

	<p>マハゼ 川の汽水域や内湾の砂泥底に生息する。主にゴカイ類を餌とする。成長とともに沿岸の深場へ移動する。1年で成熟して、産卵し死亡する。</p>		<p>スズキ 春夏は内湾に移動し、秋冬は外海の岩礁帯の深場で越冬する。完全な肉食である。産卵期は11~2月で、外海に面した岩礁帯で行われる。</p>
	<p>クロダイ 夏秋の幼魚期は内湾や沿岸域に定着する。秋冬は内湾周辺の深場で越冬をする。産卵期になると浅い砂地のある入江や湾内外の磯場にて集団で産卵する。</p>		<p>チチブ 河口域や下流域の、磯、転石、投棄物を隠れ場として生息している。雑食性で藻類や小魚を食べる。1年で成熟して、産卵し死亡する。</p>

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子



地曳網では、4月調査時同様にボラ、マハゼ、ニクハゼ、ヒメハゼが捕獲された。その他新たに、クロダイ、クサフグ、コノシロ、ナベカ属、サツパ等を確認した。
魚類以外では、ニホンイサザアミ、エビジャコ属等が捕獲された。

捕獲された主な稚魚



ボラ
成魚は内湾や沿岸の浅場に生息する。産卵は10～1月に外洋で行われる。稚魚は外洋の表層で生活するが、成長するにつれ沿岸や河川に移動する。



ヒメハゼ
河川域やそれに続く前浜干潟に生息する。生息場所は海岸近くの砂底を好む。食性は動物食である。産卵は春から夏にかけて行われる。



ニクハゼ
東京湾の干潟、特にアマモ場に多く生息する小型のハゼ。群れを作って生活するが、1個体のみ確認された。内湾の干潟域で遊泳生活をおくる。



コノシロ
内湾で生活をし、主に小型プランクトンを捕食する。4～6月に内湾で産卵をする。関東地方では、幼魚を「コハダ」と呼ぶ。

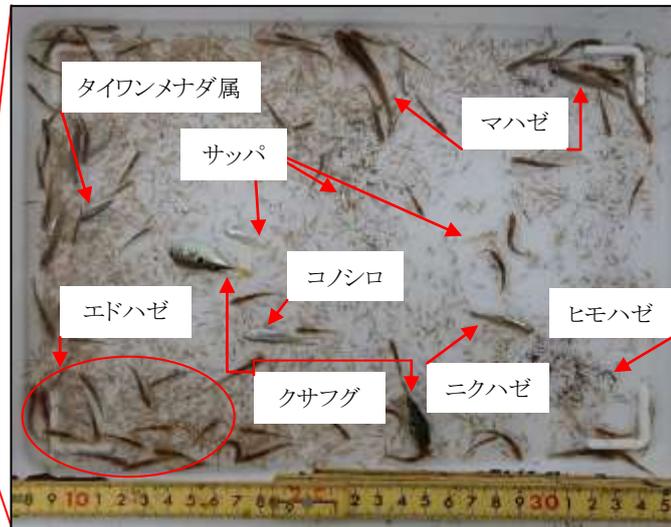
葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子



地曳網では、4月調査時同様に、エドハゼ、マハゼが捕獲された。その他新たに、サツパ、コノシロ、ヒモハゼ、ニクハゼ、クサフグ、タイワンメナダ属等を確認した。また成魚であるがアカエイも捕獲された。魚類以外では、ニホンイサザアミが大量に捕獲された。

捕獲された主な稚魚等



エドハゼ
本種は人為的な環境悪化の影響を受けやすい。東京都で絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。葛西では4月同様、多くの個体を確認できた。



ヒモハゼ
東京湾の干潟域に生息し、本調査地点にも多い。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を、産卵場所や隠れ家として利用する。



アカエイ
沿岸の砂泥底に多く生息する。卵胎生で春から夏にかけて砂底の浅場で子を産む。尾部には鋭い毒針を持っているため、注意が必要。



クサフグ
海産魚であるが、低塩分に強く、河川下流域にも侵入する。産卵は5~7月の大潮前後に、粗砂か砂礫の波打ち際で行われる。